

.....

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	乗用車運転中、意識消失した傷病者が、救急隊員の呼び掛け等でブレーキが緩み、車両が発進し他の救急隊員が受傷、救急車も破損した。
3. 体験した事例の中心的要素	国道に停車中の乗用車内で意識消失した傷病者を観察するため、座席を後方に移動したところ、患者の足がブレーキからはずれ発進したため車外からブレーキを踏もうとしたが過ぎてアクセルを踏んでしまった。また車外で関係者から事情聴取中の救急隊長はクリープ現象で発進した車両をなんとか自力で止めようとして車両右前部を手で押さえた。
4. 体験した事例の原因・理由	何らかの理由で意識消失の傷病者の場合、車両に車輪止めなどの対策をしてから、傷病者観察を開始すべきであった。発進してしまった車両を止める方法は、サイドブレーキを引く、ＡＴギアを抜くなど考えられるが確実ではない。またクリープ現象で低速とされても、発進した車両を手で止めることは非常に危険な行為であった。

.....

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の実行に問題があった。
------------------	---------------

.....

1. 発生日時	平成 19 年 9 月 12 日 午前 8 時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋外：朝の交通量の非常に多い国道
4. 体験した事例の種類	他人が、回答者を負傷させた。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	その他：救急隊員の誤操作で発進した車両により受傷した
7. 事例体験時の活動	救急、現場活動初期 [車両]
8. (7の活動中) どのような作業中に発生したか	その他：傷病者の車両固定、その他：交通事故現場で関係者から事情聴取中
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[51]歳、勤続年数[32]年、現場経験年数[32] 年、 階級[消防司令補]、同様の活動 [頻繁]、 任務 [車長]
○当事者 B	年齢[43]歳、勤続年数[18]年、現場経験年数[15]年、 階級[消防士長]、同様の活動 [頻繁]、 任務 [隊員]
○当事者 C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、 階級[]、同様の活動 []、 任務 []
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	主幹道路（国道）での救急事案のため、消防隊 1 隊（4 人）が同時出動した。応援救急隊 1 隊（3 人）

11. 事例発生経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	救急隊現場到着		
経過 2	救急隊長	運転席で意識消失している男性を確認する	隊員に観察を指示
経過 3	隊員	運転席ドアを開け、呼び掛ける	意識レベル J C S 2 0 0
経過 4	隊員	座席を後へスライド、乗用車が発進した	8 : 1 6 消防隊員到着
経過 5	救急隊長	患者の友人から車両前で事情聴取	機関員は資機材準備
経過 6	救急隊長	発進した車両を手で静止しようとした	
経過 7	隊員	ブレーキを踏もうとし誤ってアクセルを踏む	救急隊長 股関節打撲
経過 8		前方に停車した救急車に接触（走行不能）	機関員は患者室内
経過 9	消防隊長	応援救急隊要請	
経過 10		傷病者を車外に搬出	

【その事例発生時の状況について】

● ●

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった。その他：事故を予見できず、危険な場所で活動していた。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	はい

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

はい：「車輪止め」を積載していなかった。

【事故発生後の取り組みについて】

.....

○注意力欠如、焦り等の対策について

各署所で、本事例を検討し各隊員に注意を促した。

○装備・資機材の対策について

各救急隊に「車輪止め」を積載した。

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について